

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

地区の東エリアは住宅地が広がっており、中には保存緑地として昔からの緑が保存されている箇所も見られます。西エリアは南・北加住丘陵に代表される豊かな緑が残っていますが、手入れが行われていない樹林地も存在しています。地区の中央には谷地川が流れ、上流では昔からの自然護岸が残っています。上流での水質・水量を改善していく必要があります。

また、中央エリアは国道16号・20号、16号バイパスのほか、中央自動車道八王子ICも近く、交通の要衝となっています。このことから、大気汚染の状況にも注視していますが、近年は減少傾向にあります。

その他にも、人目に付きにくい場所へのごみの不法投棄対策や環境保全意識の啓発、地区の貴重な自然・文化・歴史を知る機会の提供など、様々な分野での対応を行っていく必要があります。

■ 北部地区の主な取組

1 谷地川の調査

谷地川の7地点にて、隔月の水質調査（COD、pH、電気伝導度、溶存酸素等の定点観測）を実施したほか、水量調査と生物調査をそれぞれ年1回実施しています。

また、6月に実施された全国一斉水質調査にも継続して参加しました。



谷地川調査

2 緑地保全活動

地区内の環境活動団体と協働し、都の緑地保全地域4か所、市の緑地3か所等を保全・整備しました。社会情勢に伴い活動回数を制限しながらも、充実した活動を心がけました。

また、大谷緑地保全地域では、皆伐や萌芽更新を終えて一変した林床の植生変化を観察しながら、保全活動を行いました。



緑地保全活動

3 環境教育・環境学習などの推進

小宮小・第八小の4年生と、宇津木台小の全学年を対象に、多摩川で自然を学ぶ授業の支援を行いました。1校は中止となってしまいましたが、2校では体験学習を1回ずつ実施し、実施後には環境学習活動をまとめたパネルを作成しました。



川の学習

また、市内の他団体とも協力し、大和田小・第八小・緑が丘小・代々木山谷小（渋谷区）を対象に、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ活動を計画しました。(新型コロナウイルスの影響により2校で中止)

そのほか、東京グリーンキャンパスプログラムに参加し、東京都立大学の学生を対象に、2つの保全地域の取組を比較し、保全活動の多様性を紹介しました。東京グリーンシップアクションでは、緑地保全の体験を通して、環境問題や緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。

4 大気汚染測定

12月の都内一斉調査日に、地区内の幹線道路等を対象に二酸化窒素濃度の定点調査を実施しました。(例年は6月・12月の年2回、平成16年から毎年実施しています。)

平成16年当初から測定している17地点をはじめ、合計調査地点数は47か所にもものぼり、過去最多となりました。各地点の濃度は、年々概ね減少傾向にあります。今後も、定点測定を継続していきます。

5 地域との協働活動の推進

石川・加住市民センターにおいて、環境市民会議を知ってもらうための活動パネル展示や入会勧誘を行ったほか、ダンボールコンポスト講習会においても市民会議の活動を紹介しました。



市民センターのパネル展示

また、環境市民会議の協働活動実行委員会に参加し、6地区の市民会議の協働によって市民へPRできる方法について話し合いました。

■ 特色のある取組

自然と歴史の資産である滝山城跡を紹介する自然体験講座を11月に実施しました。令和2年度は、初の試みとして尾根道を経由し、将監谷戸まで足を伸ばしました。



滝山城跡での自然体験講座